

第 2 表 薬 劑 撒 布 効 果 (1961年)

処 理 ブロック	無 撒 布	ダ イ セ ン	ル ベ ロ ン 石 灰 ボ ル ド ー	石 灰 ボ ル ド ー	水 銀 ボ ル ド ー
	I	3.7	1.6	1.2	2.6
II	3.4	0.8	1.0	1.2	1.6
III	3.2	1.1	0.7	2.0	1.8
IV	3.4	0.5	0.8	2.8	1.8
平 均	3.4	1.0	0.9	2.2	1.8
健 全 苗 率	2.4	61.3	64.3	32.3	40.8

第 3 表 試 験 期 間 中 の 降 雨 量 (平均mm)

年	月	7			8		
		上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬
35 年		10.1	0	4.0	0.1	5.7	2.0
36 年		19.7	0.1	7.0	10.0	12.3	8.3

55. 「俗 称 シ オ ギ」 に 関 す る 研 究

長崎県対馬林業指導所 ○和 田 威 繁
吉 留 繁

1. は じ め に

一般に対馬の木材関係業者間で呼ばれている「シオギ」は、その言葉をかりると、スギ材の樹皮に 1cm ~ 2cm 幅の直線が縦に数m にわたって現われ (以下仮に「シオギ線」と呼ぶ)、その木を 板材に製材すると割れを生じて使用できないものをシオギといっている即ちシオギと呼んでいる。亦一説にはこれを「ツクワレ」と云いシオギは前述のように樹皮並に木口断面等で肉眼的に判別出来ず、板材に製材乾燥してはじめてバラバラに板が割れるものをシオギと呼ぶ説もあるが、一般に対馬島内で呼ばれるのは前者のシオギ説が多く、このシオギなるものの原因、性質を調査研究し、島内生産材の質の向上を企り、不良材の汚名を一掃するために調査を思いついた次第である。まず、樹皮の状態から考えて毎年凍裂にあつた結果、このようになるものと予想して一地方の一林分で比較的多くシオギのある所を選んで次のような調査を試みた。

2. 調査個所並に方法

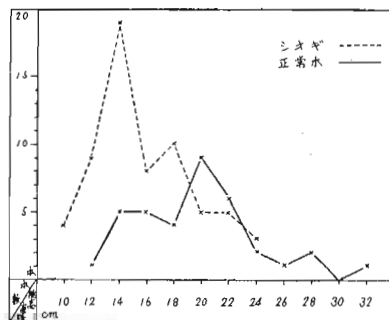
調査地は長崎県下県郡豊玉村曾字ムクロオセ梅野邊

磨氏所有林で、スギの同合単純林、樹齢18年生、標高80m、面積1haであつて、調査方法としてはこの調査地から100本を無作為に抽出し、シオギ線の有無、胸高直径、シオギ線の長さ、地上高、方位、並に辺材部分の木材含水率(絶乾)を調査し、その中の1本を伐倒しその断面を観察した。

3. 調査結果

調査の結果シオギは、100本中36本で、その胸高直径別配分は図1のとおりで、シオギが胸高直径大なる

(図1) 胸高直径別配分図表



ものにあられる傾向が認められる。これは後述する断面の損傷部分を急速に癒う能力のある木即ち成長大なる木にシオギ線があられるものと考えられる。

シオギ線の長さは表1のとおりで一定した傾向は認められず平均値は約1.65mである。

シオギ線の始まる地上高は表2のとおりで、これも一定した傾向は認められず平均値は2.30mであり、方位別は図2のとおりでこれだけの数では明らかでない。次に木材含水率は表3の通りであつて、シオギと正常木との間に差が認められなかつた。木口断面の形態的特徴はある年度に損傷を受けた部分があつて、それを癒合組織の異常な発達によつて癒着しているのが認められ、この結果樹皮に縦裂となつて現われるもの

(図2) 方位別本数表

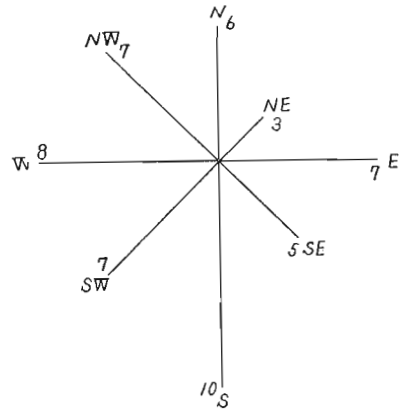


表1 シオギ線長別配分表

シオギ線長	本数
0 ~ 0.50m	9
0.51 ~ 1.00	7
1.01 ~ 1.50	13
1.51 ~ 2.00	8
2.01 ~ 2.50	5
2.51 ~ 3.00	3
3.01 ~ 3.50	8
平均値	1.65m

表2 シオギ線地上高別配分表

シオギ線地上高	本数
0 ~ 0.50m	7
0.51 ~ 1.00	3
1.01 ~ 1.50	9
1.51 ~ 2.00	5
2.01 ~ 2.50	8
2.51 ~ 3.00	7
3.01 ~ 3.50	11
3.51 ~ 4.00	2
4.01 ~ 4.50	1
平均値	2.30m

表3

シオギ含水率				正常木含水率			
番号	含水率	番号	含水率	番号	含水率	番号	含水率
1	132.5	18	174.4	1	141.9	18	159.3
2	132.4	19	135.4	2	147.4	19	188.8
3	126.4	20	161.6	3	190.6	20	159.5
4	92.7	21	137.1	4	167.4	21	171.4
5	125.3	22	199.5	5	154.9	22	170.8
6	160.6	23	164.2	6	149.1	23	110.1
7	111.4	24	131.1	7	175.8	24	144.4
8	142.5	25	177.1	8	145.1	25	142.5
9	146.4	26	158.3	9	184.9	26	125.7
10	157.7	27	204.8	10	146.8	27	124.1
11	162.1			11	166.4	28	179.5
12	146.2			12	118.5	29	146.5
13	136.1			13	116.5	30	120.9
14	128.2			14	129.5	31	168.8
15	122.5			15	133.6	32	128.9
16	161.4			16	152.5	33	130.3
17	88.9			17	117.8		
	平均値		145.1		平均値		148.8

であると考えられる。亦この損傷部分には明確な割れを生じており、製材した場合これが割れとなつてあられることは明らかで、この損傷部分の形態には色々ある模様である。

4. むすび

はじめにのべたように「シオギ」は対馬地方の俗称であつて、これの紹介を行い、同時にその原因が或は

凍裂の一種もか知れないと思つて簡単な調査を行つた。最初予想した被害材と無被害材の含水率の差が本調査では認められず、被害の原因を凍裂の一種だとする理由づけにはならなかつた。しかし樹皮の形態、木口断面の割れ方、シオギ線の長さから考え合せて、やはり凍裂の一種と考えられるのでより綿密な木材含水率の調査と、それと併行して環境立地条件、分布範囲、品種の問題等をかみ合せ研究していきたいと思う。